

第32回 長野市中心市街地活性化基本計画評価専門委員会 議事録

日時：令和7年9月24日（水）

午前10時00分～午前11時30分

場所：長野市役所第二庁舎 5階251会議室

出席委員：6名（竜野委員長、金澤副委員長、越原委員、柳瀬委員、石川委員、塚田委員）

欠席委員：1名（吉川委員）

- 1 開会
- 2 長野市都市整備部長あいさつ
- 3 委員長あいさつ
- 4 議事

（1）長野市中心市街地活性化プランのフォローアップについて

資料1（説明者：事務局）

発言者	発言内容
副委員長	資料1「（1）事業の効果」として、個性的な店舗が誕生する、とあるが、具体的にはどのような店舗があるか。
事務局	中心市街地遊休不動産活用事業などにより、市で把握しているだけでも200件を超える物件が誕生している。若い方を中心に、飲食店、ビール醸造所、宿泊施設など、元の建物をそれまでとは違った形で活用している。
副委員長	取組によって生まれた店舗はニュースで取り上げてもらうなど、積極的に知らない人たちへ告知してほしい。
事務局	これまで整備したものが皆様にあまり認知されておらず、回遊性に繋がっていないことが課題と感じている。次期計画では、新たな展開として、情報発信を行っていくことを考えている。
委員	資料1「（2）目標指標の達成状況」で、指標4の施設利用者数が増えていない、とある。施設登録者の母体が減ったのか、単純に施設の利用者が減っているのか。 また二点目として、指標1「善光寺仁王門前の歩行者・自転車通行量」の調査では、実測値としているのか、GPSなどの位置情報等を利用しているか。
事務局	一点目、施設利用者については、コロナ禍を経て生活様式が変化し、リモート会議によって会議室利用が減少するなど、施設の利用方法が変わってきている。また、施設によっては広場利用者をカウントしていたが、コロナ禍を経て、広場へのキッチンカー出店が減少したことが、利用者数が戻らない一因となっている。また、各施設の登録者数の増減については把握していない。

	二点目として、交通量調査は、定量的に評価を行うため実測値を用い、これまでに積み上げた過去データを踏まえて評価を行っている。 調査は年1回実施のため、天候に左右される。今後は費用面も含めて、測定方法の研究が必要と考える。
委員	特に通過数だと、どこからどこへ行った、ということが分からない。GPS等位置情報を使用した調査などの費用面はだいぶ安くなってきていると思う。 私自身もリモート会議が増えており、会議室の利用は減っていると感じる。別の用途への転用を考えてもいいと思う。
副委員長	資料1「(2) 目標指標の達成状況」の目標2、住みたくなるまち、の中心市街地の人口について、中心市街地には住民票を移さずに居住している人もいると思う。令和7年度国勢調査の数値を活用することで、居住人口の実態を把握できるのではないかな。
事務局	ご指摘のとおり、国勢調査では、国籍、住民票の有無にかかわらず、どこに住んでいるかという実態が把握できる。ただ、規模の大きい調査のため、結果が出るのは数年後になる。また、調査地区はブロック単位のため、中心市街地の範囲とはズレる。今後、住民基本台帳との差や居住実態を把握することが重要であると考えており、しっかり確認していきたい。
委員	資料1「(1) 中心市街地の活性化に資する事業等の進捗状況」の、事業一覧について、事業進捗が継続中と記載されている事業は、継続の有無について見直しをするのか。そのまま次期計画へ引き継ぐのか。
事務局	評価専門委員会でいただいた意見のほか、商工団体、地元商店街、商工会議所からヒアリングを行い、様々な課題が見えてきた。これまで継続している事業についても、庁内関係課と連携して事業の拡充を行いながら、実施を検討していく。
委員	事業番号18の「野外彫刻ながのミュージアム事業」はかなり長く続いている。街中に彫刻を設置することが、その地域に文化芸術を根付かせ活性化していくための手法として、本当に妥当なのか。彫刻についてはすでに数が十分ある。今後は事業の縮小や見直し、ソフト事業への予算拡充などを検討するべきではないかな。
事務局	事業を所管する課へ情報共有し、効果があるものは継続し、ないものは事業の終了も含め、どこに課題があるのかを検証しながら見直しをしていきたい。すでにあるものを活用していく視点も重要と考える。
委員	今年度から、善光寺から長野駅までの道の愛称が「善光寺表参道」になった。善光寺表参道のわき道についても愛称などを掘り起こし、遠方からの来訪者にもどこを歩いているのか分かるようにすれば回遊性が上がるのではないかな。
事務局	前期計画では、中央通りの歩行者優先事業のほか、わき道につながる部分も回遊性を高めるため、美装化に取り組んできた。しかし、データ

	を見ると来訪者の回遊行動がエリア全体に広がっていないことが分かってきた。今後関係部署と連携し、回遊行動が広がる仕組みづくりを行っていききたい。
委員	資料1「(3) まちづくりアンケート」は、今年も実施するのか。ぜひ実施してほしい。
事務局	アンケートについては定性的なものとして実施している。毎年行うのが望ましいが、枠が決まっているため、毎年の実施は難しい。しかし、定性的なものも市としては把握したいと考えており、方法も含めて検討していく。
事務局	市でも、市民アンケートを取りたい部署が多数あり、毎年調査は難しい。WEBを用いた方法なども検討していききたい。
委員長	資料1「(3) まちづくりアンケート」の、中心市街地を活性化するためにはどのようなことに取り組みればよいと思いますか、という設問で、駐車場整備やバスなど公共交通機関の充実、が上位に挙がっている。駐車場は整備されつつあると感じるが、利用者の減少により公共交通機関は縮小している現状がある。遠方へ向かう路線だけでなく、街中の路線も本数が減っている。そのあたりも反映していただきたい。
委員長	以上の意見を踏まえ、事務局で対応いただきたい。

(2) 第三期長野市中心市街地活性化基本計画の策定について

資料2、計画(案) (説明者：事務局)

発言者	発言内容
委員	資料2「(2) 第三期長野市中心市街地活性化基本計画(案)の概要」の目標数値のうち、「生きがいを感じるまち」の長野市芸術館利用者数は、今までカウントされていなかったということでよいか。
事務局	目標数値について、これまではご指摘のとおり、もんぜんぷら座、生涯学習センター、権堂イーストプラザ市民交流センターの3施設。今回、文化という観点にも着目した中で、長野市芸術館を加えた。 また「住みたくなるまち」の指標についても、総人口に対する中心市街地の人口の割合で示していたが、数値が市全体の人口減少の影響を受けるため、実態がつかみにくく、今回、中心市街地の人口という形に変更した。 「訪れたくなるまち」の指標は、善光寺仁王門前の歩行者数のみだったが、調査が1日のみということもあり、より来訪者の実態を把握するため、中心市街地内のホテルの年間宿泊者数を新たに指標に加えた。
副委員長	「訪れたくなるまち」の宿泊者数について、中心市街地のホテル、としているが、宿泊施設とすることは難しいのか。たとえば、宿坊やインバウンド向けの旅館などは含まれないのか。

事務局	数値については、観光庁が毎年発表している宿泊者数から抽出している。定量的な評価を行うため、発表された数値を利用している。
事務局	補足として、宿坊の宿泊者数は数値に含まれている。
副委員長	資料2の2ページ目、まちなかの回遊を促す歩きたくなるまちづくり、の記載のうち、善光寺の表参道である中央通り、という表記は違うので修正してほしい。
事務局	指摘のとおり、愛称が決定したため、善光寺表参道、に修正する。
委員	(宿泊者数には) カウントはされないと思うが、最近ゲストハウスがととも増えている。数値的な動きはわずかなものと思うが実態把握は必要ではないか。
事務局	基本的にはオフィシャルデータを用いているところであるが、どのくらい利用されているかは把握していきたいと考えている。
委員	レンタサイクル事業は5年前くらいから始まったと思うが、現状はどのようなになっているか。長野市に、観光と電動自転車がなじむのか。
事務局	レンタサイクルのポートは長野駅前と東口しかなかったが、城山公園にも設置された。今後も、中央通り周辺に設置が検討されている。これまでポートが長野駅周辺にしかなく、観光客の利用が限定的だったと聞いている。市内各所にポートを設置することで、利用が促進されるのではないかと考える。なお、利用人数は把握していない。
委員	レンタサイクル事業のターゲットはどこになるのか。
事務局	事業は観光振興課が所管し、観光客をターゲットと考えている。
委員	台湾では多数のポートがあり、学生など若者の利用がとても多いようだ。利用者が多いことで、まちが活性化しているように見える。今後、高校生などの通学問題も出てくると思う。例えば、学生は30分間利用料無料にするとか、初めは借りる人数を増やし、利用者が増えたら利用料を考えるなど、長期的に考えてもよいのではないか。
事務局	現在はポートが少なく、利便性が高くない。まずはポートを増やし、移動手段の選択肢を増やす中で課題を洗い出していく。 権堂から先は上り坂になっており、まちの地形上、利用がなじむのかなど、ポートの場所や規模についても検討していく。ご提案いただいた内容は、所管課と情報共有させていただく。
委員	空き地をポートにすると税金が安くなる、など整備についても、今後工夫が必要だと思う。
事務局	今後、研究していく。
委員	資料2の3ページ目、計画のテーマとして、歴史を紡ぎ未来を創造するまち『門前都市ながの』は良いと思う。 滞在する都市に切り替えていかないと、今後のまちづくりは難しいのではないか。まずは、国の認定をとることが重要。計画は途中で変更できる。市民と対話しながら作り込んでいってほしい。また、ハード事業とソフト事業のバランスが重要だと考える。ハード事業が非常に少ない。ソフト事業は人が必要になるため、高齢化少子化で苦しむ。一過

	性のイベントが多いため、長期的な視点が必要。市民が、自分のことのように使ってもらえる街づくりが重要だ。
委員	資料2の4ページ目、「多様な都市機能の充実による、誰もが生きがいを感じて暮らせるまち」の事業に、長野市芸術館運営事業が新しく加わったが、運営がうまくいっているとは思えない。芸術館は使いにくい施設と感じる。どうすれば使いやすくなるのか、ということを抜本的に検討する必要があるのではないか。例えば、子供と芸術という方向にシフトするなど、他にない個性が必要。フリーに使えるような可能性も残してほしい。市民の場、という実感がない。運営体制を見直してほしい。
事務局	計画策定にあたって、庁内関係課と会議を設け、事業抽出を進めてきた。今後、地元の皆様から頂いた意見、本日の意見も踏まえ、関係課と調整していく。
副委員長	中心市街地活性化の方向が、文化芸術にシフトしていっていると感じる。中心市街地には、行きたいと感じる、市民が自由に使える体育施設がない。地価の問題等があると思うが、健幸都市ながの、という目標も掲げていたはず。中心市街地にそういう施設があるべきではないかと考える。
事務局	オリンピック施設が郊外にあり、今後大きな施設を中心市街地に設けるのは難しい、という課題がある。一方で、利便性の高い場所に体を動かせる施設があるということが非常に重要である、とも考えている。単体施設なのか、そういった機能を持つ複合施設なのか、都市機能として、どういったものがよいかという議論を含め、広い視野を持ち中長期的な視点で検討していきたい。

5 その他

	その他議事無し
--	---------

6 閉会